

田中規制委員長発言に疑問

関西電力高浜原発3、4号機の運転差し止めを認め、福井地裁の仮処分決定に關して、原子力規制委員会の田中俊一委員長が15日の会見で「事実誤認、誤ったことがいっぱい書いてあります」などと発言したことが問題になっています。

決定が使用済み核燃料プールの耐震上の危険性を指摘していることに關して、田中氏は「プール自体も、プールに給水するところも、あるいはプールの水を監視する水位計等も、みんな耐震上は（最も耐震性の高い）Sクラスにしています」と述べました。

安全性の説明 事実とくい違い

による温度の上昇で危機的状態に陥ったことを指摘しています。

しかし、規制庁の担当者に問い合わせると、プールの水位計など計測装置の耐震クラスは、必ずしもSクラスとは決まっておらず、「個別の分類分けは、工事計画認可の段階で確認する」と説明しており、田中氏の発言は事実と異なります。

同決定は、使用済み核燃料プールが、放射性物質が敷地外に放出されることを防御する格納容器のような堅固な設備に閉じ込められていないこと、福島第1原発事故で停止中だった4号機のプール水の冷却ができなくなつたために、崩壊熱

(環)